

第42回大会

中国・四国・九州地区

生涯教育実践研究交流会



- 期 日 令和7年5月17日(土)～18日(日)
- 会 場 福岡県立社会教育総合センター
- 主 催 福岡県教育委員会
日本生涯教育学会九州支部
- 主 管 中国・四国・九州地区生涯教育実践研究交流会 第42回大会実行委員会
福岡県立社会教育総合センター

テーマ 「人づくり」こそが未来を創る ～「現代教育の忘れもの」を問う～

SDGs(持続可能な開発目標)が国連で採択されて以降、「持続可能な」を冠したテーマが増えました。「持続可能な地域づくり」もよく目にします。持続可能性が掲げられるということは、現実には「今のままでは持続が難しい」という認識があるからでしょう。SDGsではさまざまな課題解決の目標が掲げられていますが、考えてみると(当たり前のことですが)問題を起こすのも解決するのも社会を動かすのも「人」です。すなわち、将来を見据えた「人づくり=教育」こそが持続可能な未来を創る鍵であると言えるでしょう。

残念ながら、子どもたちの心配な状況があります。子どもの数は減少しているのに、不登校状態の小中学生34万余人、11年連続増加で過去最多、いじめ認知件数も過去最多、自殺した児童・生徒は過去3番目の多さ(2024年、文科省)と報告されています。SNSを介して犯罪に手を染めたり巻き込まれたりする若者も後を絶ちません。学習指導要領では長く「生きる力」の育成を掲げてきましたが、その力は期待通りに培われているのでしょうか。子ども・若者の健やかな成長・発達は、個人にとっても社会にとっても最重要課題です。

約40年前、三浦清一郎先生(当時、福岡教育大学)のもと、青少年教育キャンプを実施、その教育理念、指導原理と成果を『現代教育の忘れもの』として刊行しました。提案は人生を生き抜く力を育む体験を盛り込んだ「欠損体験の補完」プログラムであり、自立のトレーニングです。結論だけを言えば、子どもたちは「やればできる」、「できないのはやっていないから」でした。生活様式の変化に加えて過保護の風潮も逆風でした。私たちの40年前の懸念は今、さらに深刻になっていると感じます。家庭も学校も地域社会も何を忘れてきたのか、未来のために何が必要か、青少年教育の原点を見つめ直したいと特別企画を考えました。

今年も「未来を展望する素材」となる24事例が集まりました。時代の厳しい状況の中でも、過去の蓄積を大切にしつつ新たな試みに挑戦する取組、試行錯誤しながら前向きに地域の人づくり・つながりづくりに奮闘している方々の熱気が伝わってくる実践の数々に勇気づけられます。ご推薦いただいた各県実行委員の皆様にご心より感謝申し上げます。

本会をご支援・ご指導くださいます福岡県教育委員会、福岡県立社会教育総合センターに厚く御礼申し上げます。

中国・四国・九州地区生涯教育実践研究交流会 代表世話人 大島 まな

中国・四国・九州地区生涯教育実践研究交流会 第42回大会 実行委員会委員

戸板 正哉(鳥取県) 鳥取県教育委員会事務局社会教育課	小原 恵二(熊本県) 熊本県熊本市文化市民局生涯学習課
原田 尚(島根県) 島根県出雲市立灘分小学校	山平 敏夫(熊本県) 熊本県教育庁市町村教育局社会教育課
佐々木将光(島根県) 島根県益田教育事務所	岡田 正彦(大分県) 国立大学法人大分大学
吉岡 康行(広島県) 広島県海田町立海田東小学校	竹内 一久(宮崎県) 宮崎県諸塚村教育委員会
武原 智明(広島県) 広島県立福山少年自然の家	加藤健一郎(宮崎県) 宮崎県教育委員会生涯学習課
正留 律雄(広島県) 広島県大野子ども体験活動・ボランティア活動支援センター	大原 暁子(鹿児島県) 鹿児島県立青少年研修センター
東川 絵葉(岡山県) 岡山県倉敷市立西阿知小学校	鷗木 孝夫(鹿児島県) かごしま県民大学中央センター
河本 潤(岡山県) 独立行政法人国立青少年教育振興機構国立吉備青少年自然の家	東原 辰巳(鹿児島県) 鹿児島県薩摩川内市教育委員会中央公民館
赤田 博夫(山口県) 前(公財)山口県人づくり財団 県民学習部	大城喜江子(沖縄県) 沖縄県浦添市立森の子児童センター
矢田部敏夫(山口県) 山口県阿武町立阿武中学校	大島 まな(福岡県) 一般社団法人全国社会教育委員連合
坂井 孝吏(高知県) 高知県奈半利町立奈半利中学校	森本 精造(福岡県) 元福岡県飯塚市教育委員会
濱崎 博志(高知県) NPO法人高知県生涯学習支援センター	古市 勝也(福岡県) 九州共立大学
中尾 治司(愛媛県) 独立行政法人国立青少年教育振興機構国立大洲青少年交流の家	正平 辰男(福岡県) 福岡県飯塚市庄内生活体験学校
関 弘紹(佐賀県) NPO法人スチューデント・サポート・フェイス	紫園 来未(福岡県) オフィスしおん
鴻上 哲也(佐賀県) 佐賀県伊万里市市民図書館	菊川 律子(福岡県) 放送大学
池田 龍二(佐賀県) ショッピングシティアルタ	木原 忠(福岡県) 福岡県宇美町(前町長)
朝長 千恵(長崎県) 長崎県教育庁生涯学習課	山田 明(福岡県) 九州共立大学
棕本 博志(長崎県) 長崎県社会教育支援「草社の会」	比山 裕隆(福岡県) 福岡県教育庁教育振興部社会教育課
武次 寛(長崎県) 長崎県社会教育支援「草社の会」	富松 文夫(福岡県) 福岡県立社会教育総合センター
小園 貴寛(熊本県) 熊本県教育庁市町村教育局社会教育課	

Time Schedule 1st day 5.17 Sat.

9:15	10:00	10:30	12:20	13:10	13:50	15:40
受付	開会式	実践発表①	昼食	受付	実践発表②	
玄関ロビー	2F 講堂	第1会場:2F 第4研修室 第2会場:2F 自由研修室 第3会場:4F 視聴覚室 第4会場:4F 大研修室			第1会場:2F 第4研修室 第2会場:2F 自由研修室 第3会場:4F 視聴覚室 第4会場:4F 大研修室	
16:00	16:30	17:00	19:00			
移動	特別報告 口演「教育が社会を変える～今こそ意識改革～」 報告者 矢野 大和 (「笑わせたいわ笑学校」校長・鷹鳥屋神社宮司) 【2F 講堂】 フリータイム			第42回大会交流会 【2F 体育館】		

第42回大会 交流会

■日時：1日目の夜 17:00～19:00 ■場所：2F 体育館

参加者、実践発表者、各県実行委員会委員が一堂に会して、交流を深める場です。
以下の内容で実施します。御参加をお待ちしています。

食事、各都道府県の紹介、歓談(名刺交換)、おらがまちの名物自慢(特産品)オークション

また、オークションの売り上げは次年度の運営費の一部とさせていただきますので、御了承ください。

Time Schedule 2nd day 5.18 Sun.

8:30	9:00	11:30	12:00
受付	特別企画「青少年教育の原点と『未来の必要』～今、改めて問い直す社会教育の役割～」 【第1部】「家庭教育調査結果にみる保護者の実態と社会教育の役割～40年間で何が変わったのか、何が必要なのか、何ができるのか～」 鼎 談 森本 精造(元飯塚市教育委員会教育長) 菊川 律子(放送大学名誉教授・社会教育士) 石津 峰(福岡県立社会教育総合センター参事兼社会教育振興室長) 【第2部】「子どもを核にした人づくり・地域づくりと社会教育の底力～地域が子どもを育む！益田市の挑戦～」 登壇者 大畑 伸幸(特定非営利活動法人おむすび理事長・元島根県益田市教育委員会ひとづくり推進監) 聞き手 古市 勝也(九州共立大学名誉教授) 木原 忠(前宇美町町長)	総括 閉会式	昼食
玄関ロビー	2F 講堂	2F 講堂	

ふるさと 自慢 ポスター展

■日時：5月17日・18日 ■場所：2F 講堂

大会参加中、参加者の皆さんが携わられている「むらおこし」「まちづくり」「ひとづくり」のイベントのポスターを掲示しています。どうぞ、ご覧ください。



第1会場●2F 第4研修室

■司 会／城谷登志江 福岡県飯塚市立小学校 元校長
船津 涼 福岡県教育庁南筑後教育事務所社会教育室 主任社会教育主事

分科会の進め方

10:25~10:30

1 持続可能な地域学校協働活動事業に向けて ～地域と学校をつなぐ公立公民館の取組～

10:30~11:00

安德 和幸(福岡県八女市) 八女市黒木公民館 館長

地域と学校をつなぐパイプ役として、地域学校協働活動本部を公民館が担い、学校と学校、学校と地域をつなぎながら互惠関係を生み出すことを目的とする。特にカギを握るのはコーディネーターとしての推進員とパイプ役である公民館のリーダーシップである。持続可能な取組にするため【とらえる】【見通す】【巻き込む】を視点に地域と連携し、学校を核とした地域づくりを図っている。

2 奄美群島日本復帰70周年記念の取組

11:10~11:40

野村 貴幸(鹿児島県大島地区) 大島教育事務所 社会教育主事兼専門員

令和5年、奄美群島にとって日本復帰70周年の記念の年を迎えた。奄美の先人たちの行動と勇気の歴史を風化させないよう、大島地区の奄美群島社会教育振興会、市町村教育委員会、社会教育関係団体において様々な取組が行われた。大島地区社会教育関係団体会報(年1回刊行)に寄稿された事例を発表する。日本復帰70周年についてテレビや新聞でもたびたび取り上げられ、子どもたちがふるさとを考える機会になった。時代や世代が変わっても、先人の思いを受け継ぎ、未来につなぎ、子どもたちが人生をどのように生きていくのかを考える場を作り上げていくことが重要である。

3 移住者と地元(じげ)をつないだ公民館自主講座 「まなびや～ひのたに学舎～」

11:50~12:20

前川仁三夫(鳥取県日野郡江府町) 江府町公民館自主講座「まなびや ひのたに学舎」世話人代表

移住者として地元(じげ)との交流が必要と感じ、2017年に「トットリズム事業」を活用して公民館自主講座として開始、5～7名の世話人会で年7～8回の講座を企画運営している。「安全と安心の防災セミナー」「日野川流域の物産の深掘り」「地域のキーパーソンに出会う」をテーマに現地研修も取り入れた学習を進めている。講演後の質疑応答は参加者全員で疑問を共有し共感する時間になっている。学習を地域に還元する講座が増えるきっかけにもなった。



第2会場●2F 自由研修室

■司 会／増山 雄一 福岡県教育庁筑豊教育事務所社会教育室 主任社会教育主事
酒井慎佐也 島根県教育庁出雲教育事務所 派遣社会教育主事（奥出雲町）

分科会の進め方

10:25～10:30

1

子どもの“ワクワク”が社会を動かす!

～地域×企業×行政×大学×個人で探る新しい学びのカタチ～

10:30～11:00

柳 まり子(長崎県長崎市) cotoco(株) 代表
長崎県社会教育委員 ワクワクハンター

「ワクワクまなびアドベンチャー」は、子どもたちが探検隊となり、「出会う」「知る」「さわる」「やってみる」「見る」「聞く」のステップで学ぶ体験型プログラム。これまでに伝統文化、芸術、農業、漁業などの達人と800名以上の親子が出会い、学び場をつくってきた。地域資源を活かし、多様な人々が関わることで、学びの可能性はどこまで広がるのか。試行錯誤を重ねながら最適な形を探究中。その実践と課題を共有し、これからの学び場について皆さんと一緒に考えたいと思います!

2

地域全体で子どもを育てる体制づくりと社会教育委員

～答申書「地域学校協働活動の充実」に関する取組を通して～

11:10～11:40

松延 聡(福岡県大川市) 大川市教育委員会生涯学習課 社会教育主事

令和2年度から始まった大川市の地域学校協働活動。人材の確保や連携体制の構築という課題を抱えながら、伝統行事への参加者や高齢者の経験を生かす場が少なくなっている現状を打破する必要があった。そこで、社会教育委員の会の答申をもとに、「学校を核とした地域づくり」を組織的に進めてきた。今、各学校では、地域学校協働活動推進員を中心に協力者が増加し、少しずつネットワークが広がり、地域の絆づくりへと繋がりがつつある。

3

公民館は可能性の塊!!!

～地域を耕し、人を繋げ、住民から愛される公民館～

11:50～12:20

円山 洋輔(島根県鹿足郡吉賀町) 柿木公民館 主事

2019年に主事として柿木公民館に赴任し、一部の人には馴染みがあるが、まだまだ多くの人には公民館の存在が知られていないと感じ、公民館が中心となって「地域のネットワーク」を築いていこうと試みた6年間の記録である。地域団体との協働のもと「まずは知ってもらおう」ことを大切に取り組み、公民館祭り等の参加者の増加や、自然発生的に学校の職員室に主事の席が設けられる等の具体的な成果を説明しつつ、併せて若い世代の参画等今後の課題も提示する。



第3会場●4F 視聴覚室

■司 会／大屋 裕幸 広島県教育委員会事務局学びの革新推進部生涯学習課 社会教育主事
渡辺いづみ 福岡県北九州市立東戸畑市民センター 館長

分科会の進め方

10:25~10:30

1 今、私たちにできることは何か?

10:30~11:00

伊東つづみ(愛媛県新居浜市) 新居浜次世代ネットワーク アドバイザー
合田 柚葵(愛媛県新居浜市) 新居浜次世代ネットワーク アドバイザー
立花 日和(愛媛県新居浜市) 新居浜次世代ネットワーク アドバイザー

2020年、現在の最年長メンバーらの高校入学をきっかけに、中学生時代に取り組んできた防災事業を継続させるために、そして、高校生が公民館事業に参画しやすくするために立ち上げた。

立ち上げ当初は、新型コロナウイルス感染症の影響により活動が難しい場面もあったが、「人の役に立ちたい。」「災害に備えて自分にできることを学びたい。」という思いから活動している。防災事業だけではなく、公民館行事への参画・他団体でのボランティアスタッフなど、積極的に活動している。

2 全国の自治体初!生涯学習・社会教育行政における学びの履歴のデジタル化! ~いつでも、どこでも、スマホで提示!オープンバッジの可能性!~

11:10~11:40

吉長 愛(広島県広島市ほか) 広島県立生涯学習センター振興課 社会教育主事
村澤 孝経(広島県広島市ほか) 株式会社ネットラーニング教育事業部営業チーム

全国自治体初の生涯学習・社会教育行政における学びの履歴のデジタル化とその活用の取組である。文部科学省は令和5年より「デジタル技術を活用した多様な生涯学習の学習履歴の活用に関する調査研究」事業を行っている。広島県立生涯学習センター(広島県教育委員会)は、この事業の協力機関となって、デジタル化とその活用と手法を開発したものである。オープンバッジの活用を通して「学びの可視化とモチベーションの向上」等に有効であること等を明らかにしている。

3 スポーツの力で元気な子ども達を育てるしくみ ~地域スポーツクラブ(社会体育)の可能性を探る~

11:50~12:20

藤木祐一郎(福岡県糟屋郡宇美町) NPO法人ふみの里スポーツクラブ ゼネラルマネージャー

子どもの体力低下が叫ばれて久しく、地域ではスポーツ少年団などの社会体育の活動により、様々な解決策が展開されている。宇美町で活動するNPO法人ふみの里スポーツクラブ(陸上競技)もその一つで、運動遊びの体力向上プログラムを通じて、子どもの身体と心を育てている実践例から、生涯スポーツの推進に取り組む地域スポーツクラブ(社会体育)の可能性について探る。



第4会場●4F 大研修室

■司 会／酒匂美貴子 宮崎県教育庁生涯学習課 主幹
百留 裕幸 福岡県教育庁京築教育事務所社会教育室 主任社会教育主事

分科会の進め方

10:25~10:30

1

コミュニティ・スクールにむけたPTA活動の4年間 ～子ども達が通いたくなる学校づくりを目指して～

10:30~11:00

山崎 新(沖縄県豊見城市) 豊見城市立伊良波小学校学校運営協議会 副会長
豊見城市立伊良波小学校PTA 会長

PTAの活動は年々主体的な活動の色合いを薄めつつある。そこで、令和6年度から始まった豊見城市コミュニティ・スクールの活動と一緒に、多様な体験活動を授業として実施してきた。鬼ムーチー作りや、伝統のハーリー乗船、ふたご座流星群観察会を実施し地域の伝統を体験できるように取り組んだ。ムーチーは、もち米の粉「もち粉」を月桃の葉で包み蒸したもの、「ハーリー」は昔ながらの沖縄の漁船「サバニ」に乗り、漕ぎ競う競漕である。PTAまつりに地域の団体が参加し、焚火やけん玉体験ができた。大きな成果とまではいかないが、「地域とともにある学校」を目指してこれからも進んでいく。

2

「ママが笑えば子どもも笑う」、0歳も100歳も 互助で共に学びつながる地域の輪の活動

11:10~11:40

中島 直子(佐賀県唐津市) 地域互助力向上ネットワーク0-100(ぜろひゃく)地域の輪 代表

乳幼児対象の子育て教室を通して、年間約200組の母子と出会う中で「ママが笑えば子どもも笑う」に気づき、母親だけの支援ではなく地域全体の互助を育む活動へ発展。公民館、保育園、子ども食堂等を活用し、ベビーマッサージやリトミック、防災や性教育など毎回テーマを決めて母親たちとの座談会、講演会などを実施。子育て支援、啓発活動は市の委託。交流活動では地域の方が様々な関りで参加、多職種・多世代のつながりができている。子ども食堂では高校生の参加もあるようになった。地域には子育てを支える人が大勢いる。

3

紙芝居が取り持つ、子ども達と高齢者の心のつながりを栄養に

11:50~12:20

久保田哲寛(宮崎県都城市) 紙芝居まねきねこの会 代表
津曲 誠(宮崎県都城市) 紙芝居まねきねこの会
久保田章子(宮崎県都城市) 紙芝居まねきねこの会

10年前(H27)から活動開始。高齢者の心に残る紙芝居体験を子ども達に再現し、心のつながり(共感)や縁を普段の生活の中で、子ども達の生涯の心の栄養として残したい。紙芝居図書館日本一まちづくり都城を目指す。地域の先人の偉業を紙芝居で掘り起こし創作している。上演活動は毎月平均50回程、長期継続展開のための10か年計画も策定している。上演は小学校、市内イベント、紙芝居講座、活動概要パンフレットやまねきねこ便りの発行など。紙芝居はテレビやゲームと違う人間的な温みがある。向き合っているのが良い、との評価あり。

第1会場●2F 第4研修室

■司 会／宇井 知隆 鹿児島県鹿屋市教育委員会生涯学習課 課長
坂田 哲朗 島根県吉賀町教育委員会 派遣社会教育主事

分科会の進め方

13:45~13:50

1 「市子連」と「市教委」が両輪となった空前絶後の子ども会活性化策

13:50~14:20

中村 明博(鹿児島県鹿屋市) 鹿屋市教育委員会生涯学習課 主査

児童の子ども会加入率が激減するなか、市子連と市教委が連携して「子供による子ども会活動」「すべての子供が体験できる子ども会活動」を目指した活動の取組を紹介。具体的には、市子連は子供が考えた企画に活動費を助成、市教委は手引書の作成や育成会研修会を行った。その結果、保護者の負担が軽減され、既存区域にとらわれない子ども会が新規に立ち上がり、減少に歯止めがかかった。子供自身による「令和の子ども会活動」をさらに浸透させたい。

2

公民館と自治振興会の両輪で 住民パワーを生かした地域づくりに関する研究

14:30~15:00

高橋 利英(島根県飯石郡飯南町) 飯南町谷公民館 主事

飯南町谷地区は人口180人の集落である。閉校跡の谷笑楽校(旧谷小学校・平成17年に閉校)を活動拠点として、「つながりづくり、人づくり、地域づくり」を目的としている。注目は、公民館事業は、「運営協議委員会を中心に計画と開催する(住民主体)」、自治振興会活動は、「各部で検討し計画と実施、催しを開催する(住民主体)」等、公民館と自治協議会が両輪となって、住民パワーを生かした地域づくりを推進していることである。

3

アンコンシャスバイアスに気づく旅 ～平和を願い「つくる」ための対話と学び～

15:10~15:40

高木あゆみ(熊本県熊本市) 一般社団法人teamはちどり 代表理事

世界の平和を願い行動する仲間の輪を広げようと活動している。学校での平和学習や研修会での人権学習の講演、「考える・学ぶ・創る」ワークショップ等を行っている。2019年に5歳の娘と難民取材のためヨーロッパ・中東14ヵ国を110日間旅した。写真家でもあり、撮った写真は1万枚以上。旅は無自覚の偏見(アンコンシャスバイアス)に気づき、日常を振り返るきっかけになる。偏見を抱くプロセスやそれを崩す手法を、旅の話や写真を用いて伝える。

第2会場● 2F 自由研修室

■司 会／近藤 裕昭 山口県美祢市立秋芳桂花小学校 教頭
朝長 千恵 長崎県教育庁生涯学習課 課長補佐

分科会の進め方

13:45～13:50

1 朝市を復活させた鬼嫁たち手作りの松崎名物「三八市」
～かつての賑わいをもう一度～

13:50～14:20

野口智恵子(鳥取県東伯郡湯梨浜町) 三八市実行委員会 会長
小芦 洋恵(鳥取県東伯郡湯梨浜町) 三八市実行委員会
三津國美枝子(鳥取県東伯郡湯梨浜町) 三八市実行委員会

戦前から続く市の復活を願い、平成22年に商店街の女性4名が活動を開始。10月の3と8がつく日に地域内外の人が様々な店を出し、手作りでイベントを開催している。実行委員は自らを“鬼嫁”と称し角を付けて来場者を迎える。商店に出店を呼びかけ、鬼嫁コンテスト、ワークショップやカフェなど住民を巻き込んだイベントを企画。移住者もスタッフに入り、日常的に人が集まるコミュニティができています。要請があれば、行政イベント時にも協力している。

2 市民向け生成AI講座「AI探検隊」

14:30～15:00

上原 泰三(佐賀県伊万里市) IX-Party(ナインパーティー) 代表

生成AIの登場に対応しようと、地方でも生成AIを学べる場を提供する「AI体験隊」を開催した。活動を開始したのは、2023年4月。組織は佐賀県伊万里市を中心に結成された任意団体IX-Party(ナインパーティー)。「AI体験隊」では、伊万里市図書館と協力し、6回に分けてAIへの理解を深める体験を企画実施し、なかでも好評だったのは、独自に開発したAIツールを使って行った絵本作りだった。参加者の反応に確かな手ごたえを感じているが、ほとんどの事業を無料で開催しており、資金面での課題も抱えている。

3 子どもも大人も心が軽くなる居場所づくりに関する研究
～こころの銭湯「まんまある」の取組～

15:10～15:40

貞平 理恵(山口県防府市) 宇部市立東岐波小学校 教頭
まんま会 代表

2011年防府市市民活動支援センターの登録団体としてスタート。「子どもも大人も心が軽くなる居場所づくり」を目的に活動している。注目は、元銭湯をリノベーションして居場所として活用し、「まんまスクール(学習サポート等)」「親・大人のためのイベント、ワークショップ、寺子屋、マルシェ等」「映画上映」「講師とのお話会」等を開催し、その活動は新聞ラジオ、雑誌等で報道されると共に、山口県きらめき財団の助成を受けるまで成長している。

第3会場●4F 視聴覚室

司 会／金堀 房枝 山口県山口市教育委員会社会教育課 社会教育主事
小松 元樹 熊本県教育庁市町村教育局社会教育課 社会教育主事

分科会の進め方

13:45～13:50

1

10周年を迎えた記念行事が地域のつながりを具現化!
～芝生化された小学校のグラウンドが地域のつながりを育んだ～

13:50～14:20

菅 新汰(山口県山口市) 山口市立名田島小学校 地域学校協働活動推進員

2024年、小学校のグラウンドが芝生になって以来10年を迎えた。それを機に多くの人に芝生の良さを体験してもらおうと「グラウンド芝生化10周年を記念する行事」を企画。小学校、児童、PTA、自治会(団体を含む)、地域交流センター、大学などが協力してアイデアを盛り込み、2024年9月実施となった。4カ月の準備期間を経て、当日は他地域の方々も含めて200人近くの皆さんが参加してくれた。何よりもうれしかったのは多くの卒業生が参加してくれたこと。小学校の芝生を起点に地域が繋がっていることを実感した。

2

子どもたちの「自己肯定感・対話力・郷土愛」を育むために
～美里町におけるコミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的な推進を通して～

14:30～15:00

上田 英二(熊本県下益城郡美里町) 美里町教育委員会学校教育課 総合教育アドバイザー
大原 明恵(熊本県下益城郡美里町) 美里町教育委員会 地域学校協働活動推進員
宮崎 保(熊本県下益城郡美里町) 美里町教育委員会 地域学校協働活動推進員

令和3年度からコミュニティ・スクールと地域学校協働活動を一体的に推進するため4つの組織を構成してスタートさせた。「地域全体で未来を担う子どもたちの成長を支える仕組みづくり」を目指して、4つの組織が有機的につながり、多様な活動を展開している。結果として、地域学校協働活動数が増え、ボランティア登録者数120名(令和7年2月現在)を数える。今後ますます、子どもたちが地域と触れ合うことで、「自己肯定感・対話力・郷土愛」を育みたい。

3

学校教育課題に応える学校運営協議会制度の役割と成果
～別府市立石垣小学校学校運営協議会10年間の取組～

15:10～15:40

中川 忠宣(大分県別府市) 別府市立石垣小学校学校運営協議会 委員長

別府市立石垣小学校は平成26年度に学校運営協議会設置の準備を始め、平成28年度に学校運営協議会を設置した。まず教職員の教育課題のアンケートから始め、先生方との熟議をとおして健全育成のため「夢」「心」「命」「親育」の4つのコミュニティを設定した。その手順と、学校運営協議会が主体となった「地域に開かれた教育課程」「教職員の心的・時間的ゆとりづくり」「親育のアップデート」等の10年間の取組を報告する。

第4会場●4F 大研修室

■司 会／山下美恵香 福岡県北九州市立大里柳市民センター 館長
今井 博志 愛媛のおやじ井戸端会議

分科会の進め方

13:45~13:50

1

「楽しい」市民活動の乱発が、ネットワークではない新たなつながりを生む
～元益田市派遣社会教育主事が取り組む新しい市民活動の育成～

13:50~14:20

谷上 元織(島根県益田市) 益田市立戸田小学校 教頭
元益田市派遣社会教育主事

益田市ひとづくり協働構想(2016年)策定当時に益田市の派遣社会教育主事を務めた経験を土台に、現在、市民活動デザイナーとして、様々な市民活動のコーディネートを行っている。その内容は、「何にもしない合宿」、「ヨシダリーダーズ」、「モチヨルmorning」など多様である。「楽しい」を大切にしながら小さな場が乱立し、そこに集う様々な人同士のゆるやかな繋がりが生まれることで、市民活動に参画する機運が醸成されたり、自ら行動してまた別のコミュニティを立ち上げたりする人が生まれたりするなどの成果を感じている。強固なコミュニティやネットワークづくりではなく、小さな場が数多く在ることの利点について、これから必要な市民活動の展開の一例を提案する。

2

「冒険的組織」と「弱いつながりの強さ」が生み出す地域と学校の変革
～岡山県高梁市の学校地域の共創事例～

14:30~15:00

横山 弘毅(岡山県高梁市) Happy Collaboration合同会社 代表
高梁市教育委員会 学校連携コーディネーター

高梁市のもつ地域資源と市役所の埋もれたリソースを活用した学校と地域の協働プログラムである。備中高梁会議(高梁探究サミット)、高梁まるごとキャンパスツアー「マナタビ」、高梁みらい共創チャレンジなどであり、委託や市教委及び市役所との協働で実施している。成果として、中・高・大学生参加の地域プロジェクトが飛躍的に増え、学校と地域(行政)の行き来も飛躍的に増えた。財源、コーディネート(学校と地域のハブになる)人材を集めることが課題である。

3

薩摩川内市の人材養成講座

～「人づくり・つながりづくり・地域づくり」を目指す効果的なプログラム～

15:10~15:40

東原 辰巳(鹿児島県薩摩川内市) 薩摩川内市教育委員会社会教育課 社会教育指導員

薩摩川内市で実施している4つの人材育成講座「福祉ボランティア養成講座」「子育てサポーター養成講座」「地域づくりボランティア養成講座」「学校支援ボランティア養成講座」を紹介。特徴は関係機関との連携はもとより、各プログラムに共通して「ワールドカフェを使った受講生だけの話し合い活動」「講座全体のふりかえり」を入れたこと、体験発表や現場の視察を取り入れたことなどである。結果、ボランティア登録者の増につながった。今後は、活躍の場を創造してまいりたい。

1st day
5.17 Sat.

第42回大会 特別報告

■時 間／ 16:00～16:30 ■会 場／2F 講堂

□ 演「教育が社会を変える～今こそ意識改革～」

報告者：「笑わせたいわ笑学校」校長・鷹鳥屋神社宮司 矢野 大和

2nd day
5.18 Sun.

第42回大会 特別企画

■時 間／ 9:00～11:30 ■会 場／2F 講堂

テーマ「青少年教育の原点と『未来の必要』 ～今、改めて問い直す社会教育の役割～」

第1部 9:00～10:10

「家庭教育調査結果にみる保護者の実態と社会教育の役割 ～40年間で何が変わったのか、何が必要なのか、何ができるのか～」

鼎 談：元飯塚市教育委員会教育長
放送大学名誉教授・社会教育士
福岡県立社会教育総合センター参事兼社会教育振興室長

森本 精造
菊川 律子
石津 峰

第2部 10:20～11:30

「子どもを核にした人づくり・地域づくりと社会教育の底力 ～地域が子どもを育む!益田市の挑戦～」

登壇者：特定非営利活動法人おむすび理事長・元島根県益田市教育委員会ひとづくり推進監
聞き手：九州共立大学名誉教授
前宇美町町長

大畑 伸幸
古市 勝也
木原 忠

<報告者・登壇者・聞き手プロフィール>



●矢野 大和 「笑わせたいわ笑学校」校長・鷹鳥屋神社宮司

1956年佐伯市宇目町生まれ。大学受験勉強中、ラジオの深夜番組で落語の面白さにハマる。大学在学中にもっぱら寄席通い。帰郷して宇目町職員、市町村合併で佐伯市職員となり、佐伯市観光大使に。県南落語組合は1984年結成。退職後は、口演活動、執筆活動・大分県PR活動のために「矢野大和事務所」開設。落語で培った軽妙な語りは、全国各地から呼びがかり、年間300回を超える。鷹鳥屋神社宮司でもある。



●森本 精造 元飯塚市教育委員会教育長

福岡県教育庁社会教育課長、福岡県立社会教育総合センター所長、穂波町教育長、飯塚市教育長、飯塚市青少年教育施設サンビレッジ茜理事長を歴任。穂波町時代、全公立小学校に「子どもマナビ塾」、「熟年者マナビ塾」の導入、飯塚市では「いいづか市民マナビネットワーク」(e-マナビ)など先駆的行政施策の開発を手掛けてきた。退職後は「学童と学校の連携」(学社連携)に奔走。令和6年から「風社の会」(福岡県社会教育関係者の会)会長。



●菊川 律子 放送大学名誉教授・社会教育士

福岡県立図書館長や国立青少年機構理事等、福岡県や国で教育行政、特に生涯学習の仕事に携わる傍ら、長く中央教育審議会の審議に関わった。九州大学では理事として男女共同参画や教育社会連携を担当。放送大学では福岡学習センター所長、副学長として、センター運営や連携業務、リカレント支援等を担当した。



●石津 峰 福岡県立社会教育総合センター参事兼社会教育振興室長

公立小学校教諭、管理職を経て令和6年4月から現職。その間、福岡教育事務所、福岡県立社会教育総合センター、福岡県教育委員会事務局の社会教育主事を継続して9年間勤務。令和5年度までの3年間を文部科学省国立教育政策所社会教育実践研究センターで社会教育調査官として勤務し、全国の社会教育関係者を対象とした研修・講座・講習の運営や全国の社会教育機関を対象とした調査研究に携わった。



●大畑 伸幸 特定非営利活動法人おむすび理事長・元島根県益田市教育委員会ひとづくり推進監

小学校8年、中学校10年、社会教育行政20年、市民活動23年と様々な教育現場を経験。益田市では、「ひとづくり」を市の施策の中心に置き、ひとづくり推進監として社会教育がその旗振り役となった。特に、子どもと地域の大人を「対話」により繋ぎ、学校外での様々な地域活動が生まれ、ひとづくりの好循環が生まれてきている。現在、NPO法人を主宰し、子どもたちの様々な体験活動の支援等を行っている。



●古市 勝也 九州共立大学名誉教授

九州共立大学・九州女子大学・同短期大学生涯学習研究センター所長、九州共立大学スポーツ学部教授、九州共立大学地域連携推進室長を経て現職。日本生涯教育学会生涯学習実践研究所福岡センター長、「西日本『生涯学習御学友』ネットワーク」世話人代表、第34回大会から第40回大会まで本交流会の代表世話人を務めた。



●木原 忠 前宇美町町長

福岡県の公立小学校教諭として6年間勤務し、昭和59年の福岡県立社会教育総合センター開設を機に社会教育主事として3年間勤務した。その後、福岡教育事務所生涯学習課長、福岡町立福岡南小学校長、福岡県教育庁社会教育課長、福岡県立社会教育総合センター所長等を経て、福岡県宇美町長を2期8年勤めた。町長時代は、「安心・安全で、活力ある持続可能なまちづくり」を基本理念に掲げ、小学校区を核として、地域コミュニティの創設に尽力した。

第41回大会開催報告

●大会期日 2024(令和6)年5月18日(土)～19日(日)

●場 所 福岡県立社会教育総合センター

実践研究発表者
司会者及び
県別参加者

中国地区			
県名	実践研究発表者数	司会者数	参加者数
鳥取	4	0	10
島根	4	2	23
岡山	1	0	6
広島	1	1	7
山口	4	2	10
計	14	5	56

九州地区			
県名	実践研究発表者数	司会者数	参加者数
福岡	4	3	146
佐賀	1	2	10
長崎	3	1	22
熊本	3	1	12
大分	2	1	21
宮崎	1	1	5
鹿児島	3	1	8
沖縄	1	0	3
計	18	10	227

四国地区			
県名	実践研究発表者数	司会者数	参加者数
徳島	0	0	1
香川	0	0	0
愛媛	2	1	10
高知	0	0	1
計	2	1	12

中国・四国・九州地区以外			
県名	実践研究発表者数	司会者数	参加者数
宮城	0	0	1
茨城	0	0	1
埼玉	0	0	1
東京	0	0	10
神奈川	0	0	1
新潟	0	0	1
静岡	0	0	1
愛知	0	0	2
滋賀	0	0	1
大阪	0	0	5
奈良	0	0	1
計	0	0	25

	発表者数	司会者数	参加者数	総参加者数
総計	34	16	320	370

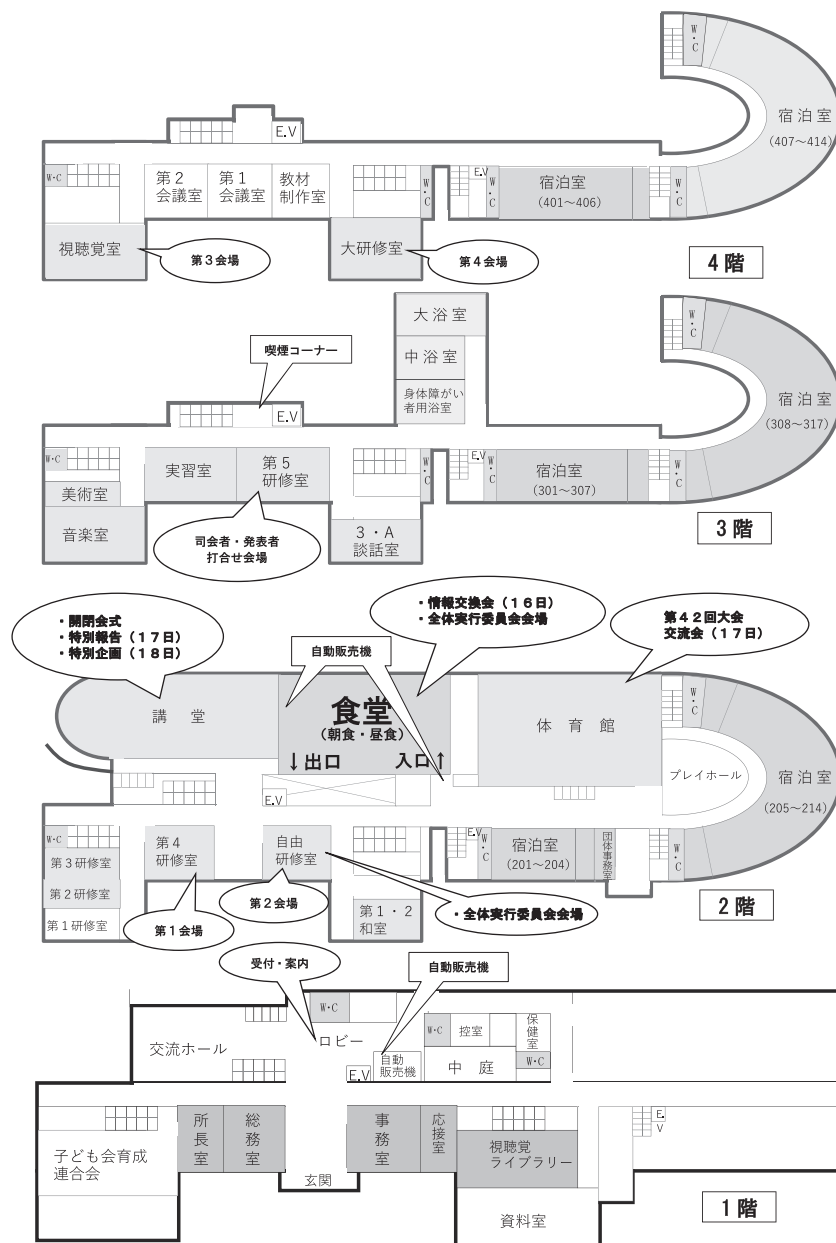
特産品、稀少品ありがとうございました
第41回大会も皆様のご協力により、
たくさんの特産品が集まりました。ありがとうございました。

番号	氏名(様)	県名	所属名等	特産品名
1	佐藤 栄一	福岡	田川市立後藤寺小学校	羊羹 黒ダイヤ・白ダイヤ
2	水落 義行	福岡	大川市立宮前小学校	柳川うなぎめんべい
3	矢野邦彦・福山美恵子・太田学	福岡	久留米市立大善寺小学校関係者	久留米黒棒本舗お菓子セット
4	鈴木 昭博	茨城	水戸生涯学習センター	とろ火焼させんべい(50枚)
5	古市 勝也	福岡	九州共立大学	島美人
6	樋田 京子	福岡	福岡県立社会教育総合センター運営委員	生産者限定 八女茶
7	山崎 充	大分	大分県立九重青少年の家	鷹来屋 日本酒仕込梅酒+梅
8	鶴木 孝夫	鹿児島	かごしま県民大学中央センター	焼酎 黒霧島
9	杉原 潔	広島	広島県青少年育成アドバイザー協議会	ミニレモンケーキ
10	杉原 潔	広島	広島県青少年育成アドバイザー協議会	れもんクッキー
11	松本 康彦	埼玉	日高市教育委員会高麗川南公民館	狭山茶
12	大島 まな	福岡	中国・四国・九州地区生涯教育実践研究交流会実行委員会	福岡とんこつラーメンー龍3食
13	森本 精造	福岡	中国・四国・九州地区生涯教育実践研究交流会実行委員会	テトラエッグ
14	緒方 真由美	福岡	中国・四国・九州地区生涯教育実践研究交流会事務局	もち吉せんべい
15	宮田 若奈	宮崎	宮崎花ふびき一座	都城かりんとうまんじゅう
16	赤田 博夫	山口	山口県生涯学習研究会VOLOVOLOの会	ワインとおつまみ
17	底原 春香	沖縄	NPO法人1万人戸端会議(那覇市繁多川公民館)	いまいパンるうまんべい&丸吉せんべいセット
18	岡田 正彦	大分	大分大学	大分米焼酎「邪馬美人」
19	矢田部 敏夫	山口	阿武町立阿武中学校	のどぐろせんべい
20	三角 幸三	熊本	CPDI	赤まき
21	職員一同	福岡	少年自然の家「玄海の家」	純米大吟醸 残心
22	眞崎 亮	福岡	夜須高原青少年自然の家	白鶴 大吟醸
23	棕本 博志	長崎	草社の会	そのぎ茶ふりかけ・そうめん
24	濱崎 博志	高知	NPO法人高知県生涯学習支援センター	宗田だしにんじんだレッシング&ミレービスケット
25	濱崎 博志	高知	NPO法人高知県生涯学習支援センター	馬路村ゆずこしょう&ミレービスケット
26	濱崎 博志	高知	NPO法人高知県生涯学習支援センター	馬路村ゆずしぼり&ミレービスケット
27	矢野 勝也	福岡	福岡県教育庁福岡教育事務所	博多通りもん
28	東川 絵葉	岡山	倉敷市立西阿知小学校	伊七
29	志々田 まなみ	東京	国立教育政策研究所	銀座キムラヤのあんぱん
30	穴戸 史歩	鳥取	北栄町教育委員会	おすすめカレーセット
31	黒見 隆久	鳥取	南部町公民館	キナランぬいぐるみ
32	黒見 隆久	鳥取	南部町公民館	おっさんしょうお銘菓
33	関 弘紹	佐賀	認定NPOスチューデント・サポートフェイス	佐賀のり 塩のり(天然塩)
34	本庄 陽子	神奈川	青山学院大学	青学Tシャツ

番号	氏名(様)	県名	所属名等	特産品名
35	山本 統	山口	むろづみ空想計画舎	船乗りのオーレとアートフレーム
36	関 弘紹	佐賀	認定NPOスチューデント・サポート・フェイス	佐賀のり 味のり
37	関 弘紹	佐賀	認定NPOスチューデント・サポート・フェイス	佐賀のり 焼のり
38	大下 真史	東京	社会教育実践研究センター	東京上野の底力
39	松尾 修	長崎	長崎県社会教育支援「草社の会」	イノシシ肉レトルト4種
40	松尾 修	長崎	長崎県社会教育支援「草社の会」	新茶
41	山下 孝治	鳥取	中部教育局	北条ワイン
42	平野 靖博	鳥取	鳥取県教育委員会	鳥取の日本酒 瑞泉
43	今井 博志	愛媛	愛媛のおやし井戸端会議	ボンジュース
44	佐藤 貴大	東京	社会教育実践研究センター	東京上野の底力
45	河本 潤	岡山	国立吉備青少年自然の家	あもちゃんの尾道ラーメン
46	車 浩一	鳥取	だんだんプロジェクト	どぶろく上代
47	山根 聡	鳥取	東部教育局	鳥取のらっきょう(ピリ辛)
48	山根 聡	鳥取	東部教育局	サンドの木製キーホルダー
49	車 浩一	鳥取	だんだんプロジェクト	どぶろく上代の朝専用甘酒「AM10」
50	車 浩一	鳥取	だんだんプロジェクト	どぶろく上代甘酒「AM7」
51	中尾 治司	愛媛	国立大洲青少年交流の家	たまごボーロ
52	原 敦代	島根	荒木コミュニティセンター	バラパン
53	清永 淳子	熊本	熊本県社会教育課	くまもと芦北まんきつセット
54	竹内 一久	宮崎	諸塚村教育委員会	焼酎と新茶
55	小原 恵二	熊本	熊本市教育委員会	栗のリキュール
56	NPO法人教育支援プロジェクト マスターズ熊本	熊本		球磨焼酎
57	長崎県教育庁生涯学習課	長崎		長崎県おつまみセット
58	長崎県教育庁生涯学習課	長崎		長崎県おやつセット
59	緒方 友希	熊本	熊本県教育庁	くまもとそうめんまんきつセット
60	SAIJO SOUP実行委員会	愛媛		愛媛西条うちぬきでできたクラフトビール②
61	SAIJO SOUP実行委員会	愛媛		愛媛西条うちぬきでできたクラフトビール①
62	SAIJO SOUP実行委員会	愛媛		愛媛西条うちぬきでできたクラフトビール③
63	堀 明美	山口	宇部市教育委員会社会教育課	山口県の地酒「東洋美人」
64	福岡県教育庁教育振興部社会教育課	福岡		三井の寿
65	武次 寛	長崎	草社の会	海峡の燐天使達ち
66	長崎県教育庁生涯学習課	長崎		長崎名産ざぼん漬
67	加藤 盛彦	長崎	長崎県教育庁生涯学習課	焼酎 青一髪
68	佐藤 淳子	大分	未来応援コミュニティb-roomぶるーむ	大分東高校の甘酒
69	舟田 美加	愛媛	愛媛県教育委員会社会教育課	愛媛の製菓
70	小椋 聖也	岡山	津山「体験の風」実行委員会	美作 御前酒
71	池端 幸徳	熊本	熊本県社会教育課	熊本ルフィ
72	吉岡 康行	広島	海田町立海田東小学校	かっこいいカーブトートバック
73	前村 泰舗	宮崎	宮崎県生涯学習課	黒霧島 原酒
74	縄田 早苗	大分	日田市立いつま小学校	ベップレトタオルと薬用湯の華(別府温泉)
75	普久原 小百合	沖縄	(一社)まちづくりうらそえ	八重山の泡盛 黒真珠 五年古酒
76	大城 喜江子	沖縄	(一社)まちづくりうらそえ 森の子児童センター	ミミガージャーキー
77	川田 裕子	広島	大野子ども体験活動ボランティア活動支援センター	もみじまんじゅう
78	南筑後教育事務所社会教育室	福岡		繁樹純米大吟醸にごり
79	原田 フミ子	福岡	南筑後教育事務所	福岡立花ワイン梅ワイン
80	平川 真一	福岡	福岡県子ども会連合会	かめのお 純米酒
81	山本 まり	山口	日本けん玉協会 山口県支部	鶏そばカラル鶏そば塩
82	田中 晶子	大阪府	大阪狭山市教育委員会	ソースカツ
83	芝尾 文徳	大分	日出町教育委員会社会教育課	蜂の音はちみつセット
84	内藤 妙子	福岡	大川市教育委員会教育長	匠人
85	山本 まり	山口	日本けん玉協会山口県支部	吉田松陰串だんご
86	宮崎 紀子	福岡	大牟田市教育委員会	草木饅頭
87	小畑 たるみ	大分	NPO法人こどもサポートにっこにこ	智恵美人
88	青木 浩平	島根	雲南市	奥出雲ワイン赤
89	桐 雅幸	島根	益田市教育委員会	ゆずっこ
90	青木 浩平	島根	雲南市	奥出雲ワイン白
91	古閑由美・稲本真里	熊本	氷川市教育委員会	氷川の特産品いろいろ
92	寺本 典則	島根	西部社会教育研修センター	山間の村1000人の村から「やさか仙人」
93	後藤 洋司	宮崎	宮崎県教育庁生涯学習課	みやざき犬限定セット
94	入江 雅史	鳥取	大山町	コシヒカリ
95	広島県立生涯学習センター	広島		広島酒!!明魂
96	広島県立生涯学習センター	広島		三島のふりかけセット
97	広島県立生涯学習センター	広島		お好みソース食べ比べセット
98	広島県立生涯学習センター	広島		かきしょう油のり
99	広島県立生涯学習センター	広島		広島カーブマウスパッド
100	西山 香代子	山口	やまぐちネットワークエコー	月でひろったたまご
101	車 浩一	鳥取	だんだんプロジェクト	干しいたけ
102	菊川 律子	福岡	放送大学	八女茶
103	原 正彦	福岡	スポーツ振興センター	茅乃舎あごだし
104	古市 勝也	福岡	九州共立大学	霧島酒造 黒霧島
105	山崎 充	大分	大分県立九重青少年の家	麦焼酎 麦波
106	山崎 充	大分	大分県立九重青少年の家	鷹来屋 雄町純米吟醸
107	今崎 宏	福岡	篠栗町立篠栗小学校萩尾分校	清酒 萬代

なお、紙面の都合上、敬称と職名は省略させて頂きました。万一、誤字や脱字、または記入漏れがありましたときは、御容赦下さいますようお願いします。

会場案内図



「ふくおか社会教育ネットワーク」

にて本大会の発表事例は、
掲載されます！



その他、福岡県内の社会教育に関する
イベント・施設・HPリンクが見られる
充実したホームページです。

ホームページアドレス

<https://www.fsg.pref.fukuoka.jp>

ぜひ一度
ご覧ください！



福岡県立社会教育総合センター

住所 〒811-2402 福岡県糟屋郡篠栗町大字金出3350-2
TEL 092-947-3512 FAX 092-947-8029